

ミサワホーム株式会社

AWSについては、情報が足りない部分もありましたが、CACのノウハウやアドバイスにより、リスクを回避しスムーズにサーバーの移行を進めることができました。

ミサワホーム株式会社 企画管理本部 情報システム部 システム推進課
主幹 中村 厚氏 参事 森嶋 浩之氏

MISAWA

ミサワホームは、「住」産業関連事業を多岐に展開する国内屈指の住宅メーカーです。

enterpriseCloud+ の利用メリットについて、企画管理本部 情報システム部 システム推進課 参事 森嶋 浩之氏（写真右）と主幹 中村 厚氏（写真左）にお話を伺いました。

1. 良質な「住まい」を提供し、豊かな社会づくりに貢献するミサワホーム

—ミサワホームについてご紹介ください。

ミサワホームは、住まいの提案、設計、販売、施工、商品の企画開発、部材の製造ならびにリフォーム事業・環境事業・新素材開発など、多岐にわたる「住」産業関連事業を手がけています。

さらにミサワホームグループとしては、戸建住宅事業だけでなく、街全体をつくる分譲住宅事業、資産活用事業、不動産事業、リフォーム事業、そして介護施設や保育園などのライフサポート事業など、幅広い事業を通じて理想の暮らしづくりをサポートしています。

「住まいを通じて生涯のおつきあい」という精神のもと、子どもたちの未来を見据え、環境にやさしく、長く住み継ぐことができる、安心・安全で、日本文化を継承する住まいを提案しています。



ミサワホームの商品：木質系戸建住宅
「INTEGRITY（インテグリティ）」
(写真提供：ミサワホーム株式会社)

2. 社内サーバーの移行プラットフォームとして AWSを活用

—ミサワホームにおけるクラウドの利用状況について教えてください。

ミサワホームでは、2014年夏を目処に自社のマシン室を閉鎖し、今後は基本的に自社でサーバーを持たない方針のもと、システムのクラウド移行を進めてきました。



企画管理本部 情報システム部
システム推進課
参事 森嶋 浩之氏

—クラウドと言っても、さまざまな種類のインフラサービスがありますが。

IaaSは、アマゾンウェブサービス(AWS)と、ベンダーが提供するプライベートクラウドを利用しています。システムの移行先としてAWSファーストで検討し、システムの仕様やライセンスの関係などでAWSでの運用が難しい場合はベンダーが提供するプライベートクラウド、それも難しい場合は、外

部のデータセンターに機器を移設する、といった順番で3つに振り分け、ハイブリッド型で利用しています。

規模の大きい人事情報や会計、文書管理などの業務システムは、バージョンアップやシステムの入れ替えを兼ねて、新規構築に近い形で順次AWS上に構築してきました。

—CACがサポートしたAWS上のシステムについて教えてください。

文書管理システムでは、アプリケーション開発ベンダーがAWSを扱えなかったため、AWS環境の構築と、運用開始後の稼働監視やトラブル発生時の一次対応をしてもらっています。部門で使用するいくつかの業務システムでは、アプリケーションも含め現状のままAWSへ移行する作業をお願いしました。

■ミサワホームがAWS上に移行した部門システム

システム名	OS
技術設計図書 DB サーバー	Red Hat Enterprise Linux 6.2
住宅市場 DB サーバー	Windows Server 2003
情報館サーバー	Windows Server 2003
特許情報管理サーバー	Windows Server 2003
FAQ システムサーバー	Windows Server 2008

3. 移行システムの構築ベンダーも、ミサワホームもAWSに慣れなことが不安材料に

—部門システムを現状のままAWSに移行する際、苦労したことありますか。

部門システムの多くは老朽化しており、ドキュメントも十分に整備されていませんでした。サーバー環境も仮想と物理サーバーが混



企画管理本部 情報システム部
システム推進課
主幹 中村 厚氏

在し、アプリケーションもWindowsとLinux上で稼働するものが混在している状況でした。

マシン室閉鎖の期日も迫っていたため、再構築せず現状のままAWSへ移行したいと考えていましたが、各システムを構築したベンダーはバラバラで、AWSへの移行実績がないことから、ほとんどのベンダーは消極的な姿勢でした。

当社にも経験やノウハウはなく、AWSに技術的な問い合わせをしたとしても、現状のまま移行ができるかどうか、移行した方がいいのかどうか、といった最終判断を自社だけでくださるのが困難でした。

また、AWSから移行ツールが提供されていたり、コンソールからセルフでリソースの割り当てやバックアップの操作などが行えるようになっていますが、英語版のコンソールしかなく、いつの間にか仕様が変わっていたりするので、AWSに慣れていないことが、作業を進める上で大きな不安要素でした。

4. 自社でAWSを導入・運用しており、システムの構築・運用に精通していることがサポートベンダーの要件

—システム移行の判断や移行作業に対する不安をどのように解消したのでしょうか。

作業を進めるうえで、スピード感をもったきめ細やかな対応をしてくれるパートナーが必要だと感じました。当時取引のあった大手ベンダーでは、当社が求める細かな移行作業に対応してもらうのが難しい状況でしたので、移行サポートは別のベンダーにお願いすることにしました。

—サポートベンダーとして、株式会社シーエーシー（以下、CAC）を選んだ理由を教えてください。

短期間で移行作業を行うためには、ベンダーの規模や移行実績、AWS運用に精通していることが重要な要件だと考えていました。

規模が小さいベンダーだと特定の技術者しかAWSに関するノウハウを持っていない可能性があり、サポート体制に不安が残ります。一方、規模が大きすぎるときめ細やかな対応が期待できないので、1000人ぐらいの規模のベンダーが理想でした。

CACは、自社システムを早い段階からAWS上に移行して運用しており、そこでのノウハウをenterpriseCloud+というサービスと

して確立し、AWS運用に必要な機能をサービス化していましたので、要件に最適だということで依頼することにしました。

enterpriseCloud+ では、AWSに不慣れでも簡単にリソースの割り当てや、バックアップなどの運用の仕組みをサービスとして利用できるので、既存の要員体制でも直ぐにAWSの運用が可能だと思ったからです。

5. 事前検証から、稼働確認、運用まで、ワンストップでAWSへの移行をサポート

— 具体的にCACに依頼した作業内容を教えてください。

AWSへの移行作業として、CACに事前調査、検証、AWSにAmazon Virtual Private Cloud (Amazon VPC) 環境の構築、本番環境の移行、運用設計をお願いしました。

(1) 事前調査

各システムの構成情報や移行による影響範囲などの調査をしてもらい、個々のシステムとAWSが提供するサービスの仕様や構造を照らし合わせ、アプリケーションの仕様の問題でAWSへ移行できないもの、システムの性質上AWSへ移行しない方がいいもの、AWSへ移行可能なものに分類し、さらにシステムのパフォーマンス低下リスクの有無やシステム変更の発生有無など、細かい要件をCACと詰めながらAWSに移行するシステムを15システムまでに絞り込みました。

移行は、短期間にできるだけ負荷が少ない方法でやりたいと思っていましたので、CACからサーバーイメージを取得しアプリケーションごとAWSに移行する方式を提案いただき、採用することにしました。

(2) 事前検証

理論上、移行が可能と判断したシステムに関して、AWS上にテスト環境を設けて動作検証を行ってもらいました。

テスト用のAmazon VPC環境を設け、移行が可能と判断したシステム全てを本番と同じ方法で移行を行い、クローズドな環境の中で正常に稼働するかの検証を行いました。

検証結果は、動作可否の結果だけでなく、システム構成の調査結果一覧も作成し、AWS移行に適合しているかどうかの判断結果を技術的な部分も含めて報告いただいたので、その後の作業をスムーズに進めることができました。

検証対象の15システムはAWS上で稼働することを確認できましたが、さらに要件を詳細に詰める作業を行い、最終的にAWSへ移行するシステムを決定しました。

(3) Amazon VPC 環境構築

今後新規に作成される部門サーバーなどの拡張も考慮したAmazon VPCの環境設計、構築をお願いしました。

(4) 本番環境の移行

本番環境からイメージを吸い上げAWSに移行後、正常に稼働するように設定作業を行ってもらい、動作確認をしてもらいました。

業務確認の部分は、構築ベンダーに本番移行の数日間は立ち合い、もしくは待機をしてもらう体制を作つておきました。

(5) 運用設計

AWSへ移行することで、バックアップ方法や障害対応方法など既存の運用からの変更部分が発生しますので、変更部分を調査し移行後の運用設計をお願いしました。

6. リスクやトラブルを事前に回避し、スムーズに移行作業を完了

— enterpriseCloud+ を利用したメリットがあれば教えてください。

移行作業においては、当社のAWSに関する情報不足が不安要素でしたが、CACの技術サポートとの確かなアドバイスにより、リスクやトラブルを事前に回避することができ、スムーズに移行を行うことができました。

また、部門システムを構築した各ベンダーに対する技術的な確認事項のリスト作成なども支援いただいたので、各社との調整をスムーズに行えたことも大きなメリットだと捉えています。

さらに enterpriseCloud+ で提供している運用機能を利用することで、新しい運用も期間内に実装することができました。

7. CACならではの経験やノウハウに基づいた提案に期待

— 今後の展開などがあれば、教えてください。

2015年7月にはWindows Server 2003のサポート終了が予定されています。AWS上で稼働しているシステムへの対策をどうするのかを検討している段階で、CACにも相談に乗ってもらっています。

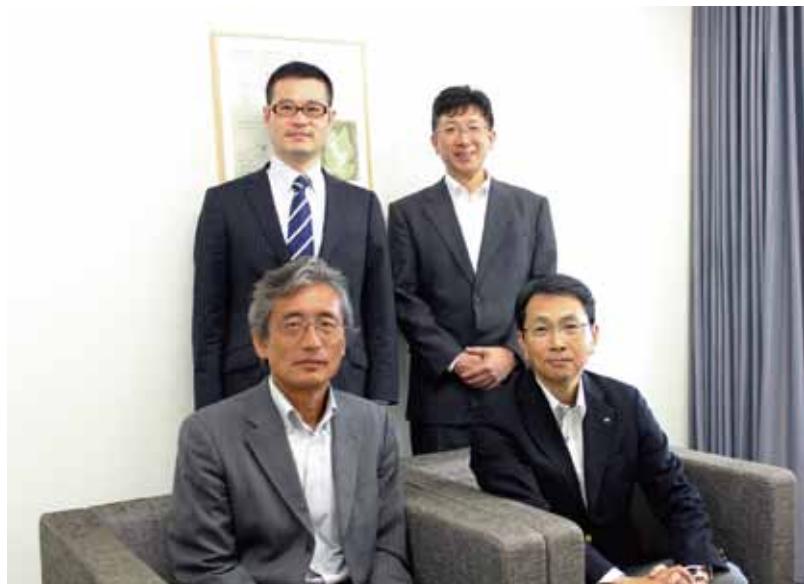
— 最後に、enterpriseCloud+とCACへの要望や期待などがあれば、お聞かせください。

今回、初めてCACと仕事をしてみて、その技術力の高さを実感

すると同時に、きめ細やかで柔軟な対応力にも感心させられました。独立系ベンダーとして、長年にわたり、ユーザから支持されてきた理由がわかった気がします。

これからも、さらに厳しい要求をすることもあるかもしれません、CACならではの経験やノウハウに基づいた、私たちの予想を超える提案や対応に期待しています。

ミサワホーム株式会社様、本日はお忙しい中、
貴重なお話をありがとうございました。



(写真後列左より)
株式会社シーエーシー

サービスビジネスユニット 運用ソリューションビジネス部 プロジェクトマネージャー 渡辺剛
ソーシャル ICT 営業本部 シニアサービスマネージャー 山崎康美
(記載の担当部署は、取材時の組織名です)

◎ ミサワホームのURL <http://www.misawa.co.jp/>

※記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

enterpriseCloud+に関するお問合せは、弊社担当営業または下記までご連絡ください。



クラウド担当 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町24-1
TEL 03-6667-8049
E-mail cloudsales@ecloudp.com
URL <https://ecloudp.com/>